



心のつながりが県連を一つにする

会長 稲田 瑞穂



コロナ禍で減入の気持ちになりがちですが、ふと、5年前の70周年記念祝賀行事のことが懐かしく思い出されます。誰もが若く元気でした。さらに、評議員会の検討や会議の場所を天神から春日市に移したことなど、皆さん方の生き生きとした姿が鮮明に浮かんできます。

私は現在、支部の会議へ参加することが一番の心の糧になっています。支部長さんや支部の方々の「やる気」に感激するからです。私だけの感激で終わるのではなく、理事・役員の方々にも支部総会への参加をお願いしたいものです。

会員拡大の根底に流れる血流は、温かい心とこころのつながりです。38年間「学ぶ、思いやる、汗する」という自身の教育理念に熟熱した日々を思い出します。教育の果実と退公連の誇りを共に語り合える日が来るのを待ち望んでおります。冬来たりなば春遠からじです。

今期で勇退された支部長さん、支部役員の方々のご協力に感謝申します。さらに県連理事坂手副会長、同じく県連理事の永井組織部長のご尽力に感謝申します。ありがとうございました。



福岡県退職公務員連盟は、昭和23年福岡県恩給受給者連盟として、創立。昭和25年現在の退職公務員連盟と改称、平成4年には、正会員が11867名にのぼり全国でも4番目に多い組織に発展した。しかし、28年後の現在（令和2年度）の正会員は2598名、準会員が431名、賛助会員12名である。約4分の1になっている。今ま

今年度の合言葉

今年こそ会員減少の波を押し止めよう

1. はじめに

で老後の生活がさほど心配なく暮らせるのも、日公連の運動の成果です。日公連は、政府や厚生労働省に直接陳情し、意見が述べることが出来る唯一有力な組織です。

今の私たちの組織の現実を真正面から捉えるために、組織拡大学習会を持ちました。その資料は、支部役員にも配布いたしました。各支部でも、今！何が出来るか論議を巻き起こすことはありませんか！

もう私たちは、組織拡大に向けて悩むときは過ぎました。私たちは、今の現状を科学的に分析して、何でもい動くことこそ一動中々自ずと戦略が見えてきます。高齢化や60代の会員が増えない世代交代が出来ないと同じ悩みをぐるぐる回っているだけでは、何も出来ない、どんな些細な事でもいい、とにかく組織拡大に向けて動く年にしようではありませんか！

令和3年3月23日の組織拡大学習会にて話し合ったことを報告します。

2. 組織拡大学習会で話し合い (1) 会員減少の実態

①会員数から見た新会員の獲得率

年度	会員数	新会員獲得数	新会員獲得率	退会数	退会率	減少数	減少率
27	3,849	102	3%	-406	-11%	-304	-8%
令1	2,942	90	3%	-333	-11%	-243	-8%
令2	2,541	60	2%	-461	-18%	-401	-16%

②会員数から見た減少率の内訳

年度	会員数	死去	死去比率	転居	転居比率	その他	その他の退会比率	減少数	減少率
27	3,849	191	5.0%	19	0.5%	94	2.4%	-304	-8%
令1	2,942	136	4.6%	12	0.4%	95	3.2%	-243	-8%
令2	2,598	157	6.0%	24	0.9%	220	8.5%	-401	-15%

【表①の考察】

新会員の獲得数が3%台に対し、退会率が約12%退会率の4分の1しか新会員を獲得できていない現状である。新会員の勧誘の在り方をまず一番に考えなければならぬ。5%を目標にしたい、という事は、各支部が現在の1.7倍の獲得を目指す。

【表②の考察】

この数字を見て一番心を痛めました。毎年約4%（150名から200名）の先輩が、亡くなるまで退公連を支えてくれます。その事に対し、受け継ぐ私たちは、真摯にその思いに応える必要があるのではないのでしょうか。新会員の抱負の中に、「年金運動を受け継ぐ者として、年金を知ること、せめて3分程度は話せるようにはなりたと思う。」とありました。そういう具体的な行動こそ亡くなった先輩会員に応えることの一つではないのでしょうか。

令和2年度が、その他の会員数が極端に多い年は、2支部の解散によるものです。その解散の大きな理由の一つに役員の手が足りないという事である。組織を強化するためには、後継者の育成による役員世代交代を考える必要があります。

③令和 2 年度の準会員数と新会員獲得数及び減少率

No.	支部名	正会員数	増	減	増減	増減率	正会員数	他	準会員	賛助会員
1	26 遠賀中間	36	1	-1	0	0.0%	36	0	0	0
2	18 三瀬大川	146	5	-6	-1	-0.7%	145	0	16	0
3	6 早良区	88	3	-5	-2	-2.3%	86	0	25	0
4	15 大牟田	159	8	-12	-4	-2.5%	155	0	50	0
5	8 糟屋	100	1	4	-3	-3.0%	97	0	104	0
合計		2,948	60	-410	-350		2,598	9	431	13

【表③の考察】

例外もあるが準会員が加入している支部程新会員獲得数が多く減少率も-0.7%から3.0%と少ないことが言える。新会員獲得数 60 名のうち 18 名ですので 30%を占めている。



◆以上の実態から学び下記の 3 点を県全体で取り組むこと提案いたします◆

①すべての支部で、学校の校長・教頭先生を準会員に勧誘する

現在は、準会員が 431 名である。小学校が 712 校、中学校が 329 校合わせて 1041 校あります。教頭先生も含めて準会員に勧誘すると、2082 名になります。目標として、現在の 431 名から 2082 名の準会員の獲得を目標とする。

手立てとして、各地区の退職校長会に働きかける。準会員になってもらった時に退公連の広報活動をする。(日公連新聞、県連ニュース、会報等を手渡して繋がりをつくる)

つまり現職の時から退公連の必要性を話し信頼関係をつくり正会員加入へとつなげる。

本来は、他職域の勧誘をしていく事も必要ですが、経過的な取り組みとして理解して頂きたい。

②組織の強化

支部の中で、一人の役員に仕事を集中させない。支部長・事務局長・会計・班長の仕事をそれぞれが責任を持って分担する。組織として会議を持ちまたコロナで会議が持てない時でも常に連携を図る。

その中で一番組織の礎になるのが班長の活動である。新聞や会報等は、手渡しが原則です。その中で、会員の状況の把握(安否確認)そして、会員との相談活動や署名活動をしていく中で退公連の課題や必要性がわかります。

支部役員は、常に後継者の育成を念頭におき会員と関わる。

③悩む前に、とにかく行動を起こす。それが、うまくいかなかったら次の行動を起こす。その繰り返しの中で筋道が光が見えてきます。時間はかかりますが、今まで培った公務員としてのスキルを発揮し、シニアパワーで頑張りましょう。

令和3年度 一般会計歳入・歳出予算(案) 単位:(円)

歳 入.....2,194,734				
項目	3年度予算	2年度決算	前年比	摘要
1 繰越金	540,354	276,007	264,347	
2 分担金	1,573,950	1,758,360	-184,410	各支部からの分担金
3 特別基金積立金	25,410	28,280	-2,300	会員数×10円
4 繰入金	0	37,000	-37,000	旅費戻り
5 雑収入	0	2	-2	利子利息
合計	2,139,714	2,099,649	40,635	

歳 出.....2,194,734				
項目	3年度予算	2年度決算	前年比	摘要
1 会議費	110,000	63,305	46,695	評議員会等会場費
2 一般旅費	420,000	341,500	78,500	日公連、福岡県連
3 全国大会費	390,000	0	390,000	大会旅費等
4 負担金	450,000	476,000	-26,000	日公連、九地連
5 敬老福祉費	250,000	242,228	7,772	寿詞・記念品
6 研修費	10,000	0	10,000	研修会用資料
7 広報活動費	60,000	57,040	2,960	県連広報印刷、発送
8 女性部活動費	10,000	8,500	1,500	研修会、調査
9 組織活動費	20,000	14,000	6,000	調査、優良支部表彰
10 慶弔費	30,000	0	30,000	支部大会祝儀、香典
11 通信費	60,000	70,712	-10,712	郵送料 ハガキ・切手
12 消耗品費	2,000	0	2,000	
13 印刷費	60,000	69,967	-9,967	用紙、プリンタインク
14 役員手当	200,000	200,000	0	会長及び理事、監査
15 渉外費	10,000	0	10,000	会長渉外費
16 雑費	3,000	2,263	737	
17 災害積立	25,410	28,280	-2,870	会員数×10円
18 予備費	29,304	0	29,304	横断幕(19,190円)
合計	2,139,714	1,573,795	566,489	

就任あいさつ



副会長

藤淵 明宏
(鞍手支部)

情報発信・交流の場へ

このたび、福岡県退職公務員連盟の副会長を仰せつかりました藤淵です。稲田会長の補佐役として微力ながらも精いっぱい頑張りたいと思います。

退公連は、コロナ禍によって変化するであろう社会の営み・仕組みに対応していくために、これまでの会員相互の共助・公助がますます大切になっていくと考えています。そのために県退公連は皆様へ会報やSNS、資料、オンライン等

を活用しながら、多様な情報をお届けし交換する場を作っていくことが私の願いであります。

退公連には、これからさらに大きな波が幾度となく打ち寄せてくることでしょうか。稲田会長が言われる「どんなときも誇りを持ち、元氣を出して、ともに手を取り合い、強く生きていこう」(県会報45号から)を信条に、大波に打ち勝つていきたいと考えています。



トピックス 会員の拡充第2期での新会員34名獲得!

第2期(4月~6月)では特に、八幡支部が、昨年の3倍増で11人の新会員を獲得しています。まだ、多くの支部でコロナ禍があり、集約が出来ないのが現実です。第3期迄には、昨年度の60名を超えるよう動きを作りましょう。



令和3年度 新役員紹介

新支部長紹介



鞍手支部長 有吉 宏昭

今回、2度目の支部長を仰せつかりました。前回は経験豊富な前事務局長さんや、役員さんのお力をお借りして何とか重責を終えましたが、今回も役員さん方の助けを借りながら頑張ります。2年間よろしくお願ひいたします。

今、鞍手支部の最大の課題は会員の減少と高齢化だと思います。皆さんの創意を集めて、この課題解決に取り組みたいと考えています。今年度も「コロナ」の戦いも激しくなると思われませんが、各地区での集会への参加等、皆さんの協力をお願いいたします。



中央区支部長 藤 健次郎

現職時代は、人や物、場所との出会いを大切にしながら様々なことを学んできたという気がします。しかし、退職し年齢を重ねるにつけて、それが少しずつ薄れてきているように感じます。

ところが「コロナ」発生で、知人も感染し、様々なことが変化。自分のまわりも変わってきました。退職に関しても、支部総会等が中止となり、会員相互のつながりも少なくなってきました。この時期に支部長を受けましたが、まずは退公連が大切にしている自助・共助・公助をこのように進めていかなくてはならないと思っております。よろしくお願いします。



嘉穂山田支部長 江藤 辰巳

私が入会した頃の退公連は会員も多く、総会に参加しても心強さを感じたものです。今年、支部長になりましたが、会員減が止まらず何とかなしなければならぬと思います。

年金制度を維持し、少しでも条件の良い内容にするためには、組織力の拡大だと思えます。会員を増やすために別職種の公務員への接触も必要ですが、まずは、私たちの先輩である教職員への働きかけを進めるが、役員が集まり方策を講じていきます。



戸畑支部長 高木 眞

戸畑の回復力を信じて……!

北九州市戸畑区は、戦後日本の四大工業地帯の一つで、北九州工業地帯の中心都市として「商工都市戸畑」「教育戸畑」の名の元に発展した。その後、国の経済構造の変化や市合併による北九州市の誕生という大きな変化があったが「住みよい街・穏やかな街戸畑」としての発展は今もなお継続している。その中に組織する戸畑支部は、頼りがいのある先輩会員や将来性のある若手会員に支えられているが、近年若干の「結束力不足」が懸念されている。今こそ初心にかえり、戸畑の持つ誇りと伝統を守っていききたい。



三潆大川支部長 田中 寛

年金を知ることから

年金運動を受け継ぐ者として、年金を知ること、せめて3分程度は話せるようにはなりたいと思う。手始めに、水落先生の年金テーマの読み解きである、2つ目に地域を知る「地域探訪」。さらに、サロンの会員の深い人生を知る「多分野交流」事業。みんな元気で、丈夫に長生きしようと思う。

新事務局長紹介



鞍手支部 事務局長 山近 光太郎

従来のように集まって話し合うことが難しい中、社会情勢に対応した運営が求められていると考えます。会員皆さんへの情報提供をスムーズに行い、会員相互のつながりを保つるよう努めていきます。



大牟田支部 事務局長 次郎丸 敏博

今年度より事務局長を担当することになりました。本支部においても、会員の高齢化の中、会員数の減少傾向に歯止めをかけるため、支部の活性化と会員相互のつながりを深めていく方策の必要性を実感しております。



八女支部 事務局長 内藤 忠寿

退職公務員に入会して6年、八女支部でも課題は、会員増および会員の高齢化への対応等です。会員増には退職後の人生を制度的に支えてきた連盟の重要性を認識し、その理解を図っていききたいと思っております。



三潆大川支部 事務局長 大津 重昭

「コロナ禍」により、計画した事業を実施できるか不安です。支部長の指導のもと、会員の皆様の健康を優先し、組織の拡大および会員相互のつながりを大事にしながら職責を果たしていききたいと思っております。



中央区支部 事務局長 平原 晃三

現職との交流

福岡中央区支部の会員は24名で、「コロナ禍」ですが、支部長を中心に会員相互の連携を密にしながら、組織の若返りを求めている、現職の人たちとの交流を新聞の活用等で模索していききたいと思っております。

新組織部長紹介



鞍手支部 組織部長 毛利 輝海

私自身、正直なところ退公連の名称は退職時から耳慣れていましたが、仕事内容はほとんど分からず、不安ばかりです。今回は、退公連についてより多く知る機会と捉え、あわせて多少なりとも会の発展に尽すことができたいと思っております。



三潆大川支部 組織部長 二俣 常男

今は、何よりもお互いの安否確認が大切だと痛感しています。これまでも、会報等の配布等の機会をとらえて、できるだけ声をかけをするようにしてきました。部長として組織の活性化のために微力ながら尽くしたいと思っております。



戸畑支部 組織部長 林 紀代子

このたび、大先輩の後を引き継ぐことになりました。大変微力ではありますが、対話を大切にしながら組織の活性化につながるよう努力してまいります。



大牟田支部 組織部長 新木 勝憲

退職公務員の生活保障や社会福祉の増進に、微力ですが、少しでも寄与できるように努力したいと思っております。よろしくお願ひいたします。



八女支部 組織部長 末崎 悌嗣

退職後、班長を4年間経験し、今年から組織部長となりました。「コロナ」ですが、みんなできるところから始めます。

新女性部長紹介



筑紫南支部 女性部長 田中 千鶴子

再度の役に驚きましたが、私でも役に立つならと思いお引き受けしました。「コロナ」の中で、できることを模索しながら頑張ります。



遠中支部 女性部長 竹井 久美子

班のお世話して17年、顔ぶれもだいぶ変わってきました。「集う楽しさ」を工夫しながら頑張りたいと思っております。



三潆大川支部 女性部長 水落 隆子

研修の継続に努めたいと思っております。「コロナ」ですが、会員の知恵と経験を得て、進めることができたいと思っております。

研修の継続を願って

《支部活動紹介》

八女支部

積極的な社会貢献活動を

八女支部

女性部長 藤田 和代

八女支部の会員は現在102名、女性会員は48名、女性会員率は47%です。再任用制度、会員の高齢化等により会員増は喫緊の課題です。現在、女性部としてまとまった活動はできておりませんが、個々の活動を紹介します。八女市の「土曜クラブ」(子ども食堂・学習支援)の代表は女性会員です。発足から7年になり、



子ども食堂のひとコマ

今では、子どもたちだけでなく、昼間一人で過ごす高齢者や、親子での利用など多くの方の居場所となっております。その他、これまでの教師の経験を活かして、学校でのボランティア活動(読み聞かせ、家庭科実習支援、学習支援、書写指導、茶道指導、登下校も見守り)、学校評議員、民生児童委員等、多岐にわたり活躍しています。それぞれの場で生きがいを感じながら、積極的に社会貢献活動を行っています。

今後、現場の方々との絆を強め会員増を目指していきます。コロナが収束し、会員相互の交流ができることを切に願っております。

若松支部

長寿を祝い記念品贈呈

若松支部

事務局長 高田 利弘

コロナ感染拡大防止のため、昨年度より支部活動は実施できていない。そうした中、令和2年度は唯一「敬老祝賀行事」のみを実施した。

具体的には、支部役員が表彰者の自宅に訪問し、記念品および賀詞を配布した。また、施設への入所者については、郵送することによって対応した。

コロナ禍で思うこと

筑紫北支部

女性部長 奥山 静恵

筑紫北支部

「女性部としての活動を報告を！」と言われても何もないし困った。本支部は、1市(那珂川市)で会員数46名中、女性会員が10名であるが、ここ2、3年は、女性会員の減少が続いている。在籍していた女性会員が家庭の介護や孫の世

話を、自分の健康状態、高齢化等によって退会せざるを得なくなったのである。このような状況なので新入会員勧誘も思うようにいかない。そのため4地域に分けた中から、それぞれ女性役員1名の選出(お願い)もできない状態になった。元々、女性部として取り組んでいることは何もなく、支部主体の活動(支部総会・日帰り研修旅行)に、1人でも多くの参加を目的とした。ところが、令和2年度はコロナの感染拡大に伴い、すべての行事は、中止役員会等もできない状態となったが、慶祝者への寿詞、記念品、祝い金等は対象者へ届けられたとのこと。よかった！何かと大変なことがある日々ですが、できることを、できる範囲で気負わずに、感謝しながら過ごすこの頃です。

が、それ以外の支部行事はすべて実施できなかった。そこで、コロナ禍ではあるが、支部活動は年2回の支部だよりの作成および発行を中心に行っている。特に、総会対策としては、活動報告および計画、決算報告および予算案の議決については、会員に総会要綱を配

布し、返信用のはがきにより承認をしてもらい議決した。なお、令和3年度総会も同様の対応をした。若松支部は例年秋に敬老祝賀行事や懇親会冬には新春交流会を実施してきたが、コロナ禍のためそれも流動的である。会員の健康・安全を最優先に活動を実施している。

退任あいさつ



退任にあたって

元副会長 坂手 進

平成29年度からの4年間の短い期間、副会長を務めました。体調不良のため退任することになりました。振り返ってみると、平成24年7月の筑後地区の大洪水を抜きには考えられない気がします。災害ボランティア設置など復旧に努力し、多くの方々の手助けを受けたことは感謝しありません。

徳島の退公連女性部からのたくさんのタオル等、救援物資を当時の福岡事務局長より送付していただいたことを思い出します。平成30年10月4日、福岡



ともに活動した皆様へ感謝

元組織部長 永井 暢一

現在、支部の会員の減少や高齢化など課題を抱えています。組織の拡大や運動のありようなど、課題解決のために頑張りたいと思います。

5年足らずの間ですが、組織部長を務めさせていただきました。稲田会長から組織部長を打診された時は本当に驚きました。その頃は、県鶴陽会の幹事長兼調査部長として任期が残り2年ほどあったからです。その間は、当時の中業事務局長に助けをいただきました。今でも感謝しています。

このたび、私の体の不調で辞任いたしますが、思い出に残っているのは福岡センタービルでの県大会で、私

の世話で大牟田支部会員の石橋邦男さんに落語を披露してもらい大好評だったことです。集計表が8月末のしめきりまでに集まらなかったことなどを思い出します。福岡県連では、会員数の減少傾向が続いています。会員の高齢化に抗するには新規会員の獲得が必要です。会員1人が1名の加入を目指して頑張ってください。皆様のおかげで充実した5年間でした。ありがとうございました。

元副会長 坂手 進

元副会長 坂手 進